潮来市立延方小学校(NOBUKATA　ELEMENTARY　SCHOOL) 学校便り　2026. 1. 14発行

のぶっ子

第14号
児童数 316名
(男182名女134)

〒311-2442
潮来市小泉2090

Tel :0299-66-2076
Fax:0299-66-4692
URL:https://www.itako-school.jp/nobukata-el/

みんなが主役・みんなで学ぶ学校

あいことば：**あいあい(I.I)大作戦**　スローガン：**やさしく かしこく たくましく**

明けましておめでとうございます。令和８年は午年です。のぶっ子全員の飛躍の年になりますように。

双六で盛り上がり、絆を深める学級がありました。「３位であがると大吉」だそうです。面白いですね。

転入生が２人加わり、全校児童316名になりました。力を合わせて、素晴らしい学期にして行きましょう。

第３学期始業式式辞

みなさんがレストランで大好きなハンバーグを注文したのに、鯖の味噌煮が出てきたら、どんな気持ちになるでしょうか。そんな少し不思議な「注文をまちがえる料理店」を運営している、小国さんという方のお話を聞きました。

この料理店で注文をまちがえてしまう理由は、注文を取ったり料理を運んだりするホールスタッフが、全員認知症の方だからです。認知症は脳の病気の一つで、物忘れが激しくなり、「今聞いた話の内容」だけでなく、「話を聞いたこと自体」を忘れてしまうこともあります。

この料理店は、「ディズニーランドと三つ星レストランをライバルにする」という合言葉のもと、おしゃれでおいしい料理を提供することを大切にしています。もちろん、ホールスタッフができるだけ間違えないように、さまざまな工夫や準備も重ねるそうです。

ところが、開店当日には想定外の出来事が次々に起こりました。お客さんを案内したスタッフが、自分も一緒に席に座って身の上話を始めてしまったり、注文の間違いを防ぐためにお客さん自身がオーダーを書く方法が広まり、いつの間にかセルフオーダーのようなお店になっていたりしました。しかし、店内は、お客さんとスタッフの笑顔や笑い声であふれていたそうです。

その光景を見て、小国さんは「間違いは、その場にいる人全員が受け入れれば、間違いではなくなる」と感じたといいます。そして、高齢化や認知症の問題など、さまざまな社会の課題は、「社会の寛容さ」が問われているのだと気付いたそうです。

「寛容」とは、広い心で他の人の言葉や行動を受け入れること、つまり「やさしさ」です。みなさんにも、三学期をやさしい気持ちで過ごしてほしいと思います。

校長先生は、二学期に久しぶりに授業をしました。なんとか楽しい授業にしたいと思って準備をしましたが、毎時間、いつも楽しい授業にすることは、なかなか難しいと感じました。

しかし、「少しむずかしいかな」「あまり楽しくないかもしれないな」と思う内容でも、問題が解けた瞬間、多くの人が笑顔になることに気付きました。校長先生は、そのとき「問題が解けると、授業は楽しくなるんだ」と感じました。

三学期も、みなさんの担任の先生方は、みんなが「わかった！」と思えるように、一生懸命教えてくれます。みなさんも、チャイムが鳴ったら「やる気スイッチ」をＯＮにして、「わかろうとする努力」、つまり「授業を楽しくする努力」をしてほしいと思います。

「わくわくする将来に近づくために」、一生懸命勉強して、「かしこく」成長して欲しいと思います。

サッカーが好きな人は知っていると思いますが、今年度、茨城県のサッカー界は素晴らしい活躍を見せました。鹿島アントラーズの J1 優勝、水戸ホーリーホックの J2 優勝、筑波大学の大学選手権優勝、鹿島アントラーズユースの史上初となるユース三冠、そして鹿島学園高校男女サッカー部の高校選手権での大活躍など、数えきれないほどの成果がありました。

では、この大活躍の理由は何だったのでしょうか。茨城県の選手が特別にすごかったからでしょうか。もちろん、鹿島アントラーズユースなどには茨城県出身の選手も多くいますが、他県出身の選手も大勢います。

そこで校長先生は、茨城県の「環境」が素晴らしかったのだと思います。暑すぎず寒すぎず、冬でも晴れの日が多い環境、自然に恵まれ、農業・漁業・畜産業が盛んで、おいしくて新鮮な食べ物が安く手に入る環境、さらに都心に近くアクセスが良いにもかかわらず、静かで落ち着いた環境などです。

地元にいると、なかなかその良さに気付きにくいものですが、この素晴らしい環境こそが、茨城県サッカー界の大活躍を支えているのだと思います。みなさんも、この恵まれた環境に感謝しながら、「たくましく」成長してほしいと思います。